

# 第1学年 英語科学習指導案

日 時 平成27年11月19日(木) 5校時

学 級 金ケ崎町立金ケ崎中学校1年5組

男子15名 女子16名 計31名

授 業 者 教 諭 菊 池 満

## 1 単元名

PROGRAM8 *Origami* (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂)

## 2 単元について

### (1) 教材について

この単元は大介が教室で、折り紙の人形をクラスメートに見せながら Show&Tell を行っているという場面設定である。その中で助動詞 **can** の肯定文・疑問文とその応答、否定文が導入される。前単元までに学習した三人称の表現と、ここで学習する **can** を用いて、二学期のまとめとして位置づけられる My Project2 では人を紹介するパフォーマンス活動へと表現を広げることができる。また実際にものを示しながらスピーチを行う Show&Tell ができるようになることも視野に入れ、本単元でも友人の前で話す活動を体験させたい。

生徒は小学校の英語活動で音声を中心に体験的に **can** を用いた表現に触れてきているので、意味や用法について想起させることから始めたい。文の形・用法については、自作の教材やアクションカードを用い、リズムカルに口頭で十分に練習することで、自分ができることについて自信を持って英語で話したり、できるかどうか知りたいことをたずねあったりすることができるようにさせたい。また、疑問詞 **how** を用いた文の意味なども理解し、使い方を例示しながら口頭練習し、英語でたずね合うことができるようにさせたい。

### (2) 生徒の実態

金ケ崎町は、文部科学省の教育課程特例校指定を受け、小学校全学年で英語活動が行われている。また、町には4名の ALT が勤務し、幼稚園から中学生までの英語教育を支えている。そのような環境から英語に比較的楽しく、良いイメージをもって中学校に入学してくる生徒が多い。6月に行った学習アンケートでは、90%以上の生徒が英語の授業が好きと回答した。また、英語の学習活動の中で「聞くこと」「話すこと」という音声を中心とした活動が好きと答える生徒も多かった。そのことは、音読したり、自分の考えを発表したりする音声による表現活動に積極的に取り組む生徒が多いことからわかる。発表を真剣に聞く態度も身につけている。一方で、苦手な学習活動に関しては、65%の生徒が「書くこと」と回答した。苦手な理由としては、「語順がわからない。」「単語が正しく書けない。」という理由が多かった。小学校での音声中心の学習に文字の指導を計画的に行い、正しく読んだり書いたりできるようにさせたい。

### (3) 指導について

今回、県の研究指定を受け、「発信力育成のための語彙指導」をテーマとして、コロケーションを意識し、語句を活用しながら練習する活動を普段の授業の新出語句の導入に位置付けてきた。また、My Project1 では、マインドマップを用いて、自己紹介をする活動を行った。文章を書いて暗記して自己紹介をするのではなく、マインドマップにあるキーワードをもとに口頭で英文を作らせることにより、

より「話すこと」につなげたいと考えた。声の大きさ、発表のスピードに注意して、次の単元の My Project2 でも、自分の好きな人の写真とマインドマップを用いながら、発表させたい。その際、聞き手を意識して発表できるように、この単元では、絵や写真を用いることと、聞き手に伝わる発表を心がけることに取り組ませたい。

### 3. 単元の指導目標

- (1) 助動詞 can と既習事項を用いて、教科書の登場人物の紹介できる。
- (2) 助動詞 can の意味と用法について理解する。
- (3) 教科書本文から大介ができることできないことについて読み取ることができる。
- (4) 口頭で紹介した内容について書いて表現することができる。

### 4. 単元の評価基準

ア、コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ、表現の能力	ウ、理解の能力	エ 言語や文化についての 知識
発表する時に、表情や声量に気を付け、相手を意識して伝えようとしている。	①正しい語順で、大介やウッド先生について、紹介することができる。  ②発表できたことを書いて表現することができる。	①大介がどんな人かを読み取ることができる。  ②大介のできること・できないことなどを読み取ることができる。	①can を用いた文(疑問文と応答)の形・意味・用法を理解し、表現できる。  ②How～?の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。

### 5. 単元の指導と評価の計画 (6 時間)

時間	○ねらい・具体的な学習活動	評価基準	評価方法
1	○助動詞 can (肯定文、疑問文と応答) の文構造を理解する。 ・ Basic Dialog の内容理解と文法のポイントを理解する。 ・ Basic Dialog をペアで暗唱する。 ・ P 80、82 聞いてみよう、言ってみよう、使ってみよう ・ 自己表現 (2 文作文)	エ①	後日テスト
2	○P81 の内容を理解する。 ・ Oral Introduction(PC) New Words(FC) ・ 大介のことがわかる文章に下線を引きながら読み取る。 ・ 音読 (リズムと音に注意して音読する。) ・ Q and A ・ can の用法の復習 (アクションカードを用いて、パターンプラクティス)	ウ、エ①	後日テスト
3	○P83 の内容を理解する。 ・ Oral Introduction (PC) New Words(FC) ・ 音読 ・ 大介ができること、できないことがわかる文章に下線を引きなが	ウ、エ①	後日テスト

	ら読み取り、P Cを用いて、グループ内で発表する。 ・ can の用法の復習 (アクションカードを用いて、パターンプラクティス)		
4 本時	○ウッド先生ができること、できないことについて PC を用いて、発表する。 ・ PROGRAM 3 からウッド先生のことわかる部分を読み取る。 ・ 発表練習をする。(個人練習、グループ練習) ・ クラス全体での発表 ・ 発表した内容を文章として書く。(First Draft)	イ①  ア イ②	後日パフォーマンステスト   後日テスト
5	○疑問詞 how の文構造を理解し、手段について質問する。 ・ Basic Dialog の内容理解と文法のポイントを理解する。 ・ Basic Dialog をペアで暗唱する。 ・ P 8 4 聞いてみよう、言ってみよう、使ってみよう ・ 自己表現 (2 文作文)	ウ、エ②	後日テスト
6	○対話文を読み、折り紙について説明しよう。 ・ 前時 B D の復習 (数ペア発表) ・ Oral Introduction (PC) New Words(FC) ・ 音読 ・ Retelling	ウ、エ②	後日テスト
後日	定期テスト パフォーマンステスト (My Project2) ※Mind Map を用いて他己紹介する。		

## 6. 本時の指導

### (1) 指導目標

助動詞 can と既習事項を用いて、ウッド先生のできること、できないことに自分のことを加えて発表することができる。

### (2) 指導構想

ウォームアップでは、アクションカードを用いて、テンポよく口頭での練習を行い。集中して学習活動に取り組める雰囲気をつくりたい。また、その内容も本時の活動につながる活動を取り入れ、授業の目標達成につなげていきたい。

授業のメインとして、PROGRAM 3 のウッド先生の自己紹介から、ウッド先生の紹介を大介と同じ視点で既習表現を用いて発表させたい。その際に PRPGRAM 8 の言語材料である助動詞 can を使い、「ウッド先生ができること、できないこと」という視点で発表活動につなげていきたい。さらに、自分のできること、できないことも付け足して発表活動につなげていきたい。

本時の授業では、「話すこと」の指導に焦点をあて、発表する原稿を作成してから発表するのではなく、My Project 2 「人を紹介しよう」を見据え、マインドマップのキーワードを用いて、発表に取り組ませる。そして、発表したことを文章に書いて表現することで定着を図りたいと考える。

(3) 本時の評価基準

評価基準 (評価目標)	評価場面 (方法)	具体的評価基準		努力を要する生徒 への支援(手だて)
		十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
ア、表情や声量に気をつけ、相手を意識して伝えることができる。  イ、正しい語順でウッド先生を紹介することができる。	・個人・ペア練習(観察) ・グループ発表(観察)	PCを活用して、相手を意識して積極的に伝えようとしている。  代名詞を用いて正しい語順でウッド先生を紹介でき、but や too を用いながら、前後の文脈を考えて、自分のできること、できないことも紹介できる。	相手を見て、伝えようとしている。  正しい語順でウッド先生の紹介ができ、自分のできること、できないことも紹介できる。	練習や発表に苦勞している生徒にはできる限り個別指導を行い、支援する。また、PCの使い方を個別に指導する。

(4) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の工夫	評価項目(方法)
導入 15分	1. あいさつ  2. Warm Up 本時の課題を支える活動  3. Review	1. 英語のあいさつをし、曜日、日付、天気などについて簡単な対話を行う。  2. 教師の指示を聞き、PCを元に瞬時に英語で言えるかを確認しながら、必要に応じて指導を行う。 ①主語を(I や You 人の名前に変える) ②疑問文にしてみる。(Can you~?) (アクションカード)  前時に行ったマイクの紹介をPCを用いて、復習する。	※アクションカードを用いて口頭練習する。教師に注目させ、声を出し、きちんと発音するようにする。
展開 35分	4. 本時の課題提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">絵を見ながら、ウッド先生ができること、できないことを発表しよう。</div> 5. 個人練習・ペア練習	※ Do you know her? This is Ms. Wood. She is an English teacher. She is from Canada. She can speak English and French. She likes music. She can play the piano. But I can't play the piano. (8文)	※ウッド先生ができること、できないことに意識させて練習させる。

	<p>6. グループでの発表</p> <p>7. ベストスピーカーの発表</p> <p>8. writing</p>	<p>・発表の観点を提示する。</p> <p>・Program 3からウッド先生を紹介するマインドマップ作成</p> <p>ア、個人練習（3分） イ、ペア練習</p> <p>グループ毎の発表（4人グループ） ※グループ毎でベストスピーカーを決める。</p> <p>各グループからのベストスピーカーの発表 ※全体で発表する。</p> <p>・発表した内容を文章として書いてまとめる。 書いた文章を隣の人にチェックしてもらう。 気をつけるポイント ○can +動詞の原形、 ○三単現のS ○大文字と小文字、ピリオド、綴り</p>	<p>※ペア・グループでの協力するように促す。</p> <p>※机間巡視しながら、生徒の発表内容に質問する。 (ex. Can you~?)</p> <p>・机間巡視をし、生徒の様子を観察する。</p>
終末 5分	<p>9. 次時の授業の確認（5分）</p> <p>10. あいさつ</p>	<p>・生徒に自己評価をさせ、本字の振り返えらせる。</p>	